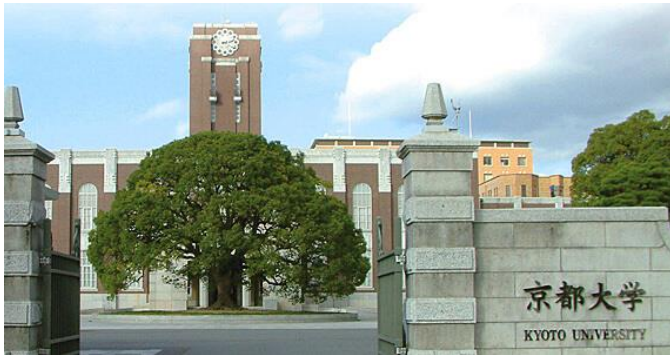


人文学への誘い

京都大学人文科学研究所協力講座

京都大学人文科学研究所は、戦前に設立された東方文化研究所、西洋文化研究所と、旧京都大学人文科学研究所が合併し、1949年に京都大学の附置研究所として設置されました。アジア、ヨーロッパ、日本の文化に関する長い研究伝統を活かし、世界文化に関する総合的研究を行うことを使命とする、国内最大級の人文科学系研究機関です。本協力講座では、講師陣が世界や日本の文化を専門分野から語ります（有料）。



卑弥呼の鏡を読む 三角縁神獸鏡を創作した陳氏の心と技

講師 京都大学人文科学研究所教授 岡村秀典
日時 10月14日(土) 10:30~12:00



卑弥呼の「銅鏡百枚」——多数の小国に分かれて争っていた日本列島の倭人が、邪馬台国の女王卑弥呼のもとに結集し、西暦239年、中国王朝の魏に使いを送ったところ、魏の皇帝から返礼として贈られたものです。日用の化粧具のほか、結婚のしるし、魔除けの護符、政権のプロパガンダなど、さまざまに用いられた古代の鏡は、どのようにつくられ使われてきたのでしょうか。北宋随一の詩人、蘇軾にはじまる1000年の賞玩と研究をふまえ、景初三年(239)鏡の図像文様や銘文を読み解くことから、画文帯神獸鏡をモデルに試行錯誤しながら三角縁神獸鏡を創作した陳氏の心と技に迫ります。

ロシアの革命とコスミズム バクーの石油とカフカスの瞑想から

講師 京都大学人文科学研究所准教授 伊藤順二
日時 11月18日(土) 10:30~12:00

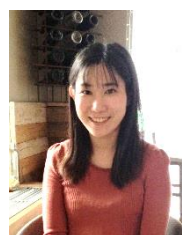


20世紀初頭、ロシア帝国はアメリカ合衆国と並ぶ石油の2大産地でした。この時期のロシアの石油はほぼ全てがカスピ海ほとりのバクー産です。天然資源は、現在に至るまでロシアの大国としての地位を支える重要なファクターであり続けています。

油田の繁栄は、火力発電や内燃機関の開発、地質学や地球化学の発展に支えられていました。しかし革命直前のロシアで科学技術の発展を支えた人びとの裏には、正教異端派と共鳴する特異な思想がありました。正教異端派はカフカス山中の瞑想から生まれました。本講義ではコスミズムと呼ばれるロシア思想の一潮流を石油とカフカス中心に論じ、20世紀におけるロシアとロシア革命の位置づけについて考えてみます。

オペレッタでわかる世界史 大衆喜劇における風刺表現の変遷

講師 京都大学人文科学研究所助教 小川佐和子
日時 12月23日(土) 13:00~14:30



19世紀にフランスで誕生し、その後ウィーンやベルリンで黄金期を迎えたオペレッタ(喜歌劇)は、ミュージカルや映画といった新たな娯楽の台頭、およびナチスによるユダヤ人作曲家の排除によって1930年代以降に衰退していきます。歌と芝居からなるオペレッタは、オペラと違って軽佻浮薄な娯楽とみなされがちですが、そこには世相に対する辛辣な風刺がちりばめられています。ジャック・オフエンバックの《天国と地獄》、ヨハン・シュトラウスⅡ世の《こうもり》、フランツ・レハールの《メリー・ウイドウ》など代表的なオペレッタ作品を吟味して、大衆の視線から当時の時代状況を読み解いていきたいと思ひます。



朝日カルチャーセンター | 京都
朝日JTB・交流文化塾

<https://www.asahiculture.jp/kyoto>

〒604-8005 京都市中京区河原町三条上ル
京都朝日会館 8階
TEL 075-231-9693

朝日カルチャー 京都

検索

京都教室の窓口(京都朝日会館8階)

月～土は午前9時30分～午後6時30分

日曜は午前9時30分～午後2時 祝日は原則として休館(振替休日を含む)

※ただし、9月18日、11月3日、12月23日、2018年2月12日は祝日営業します。



〒604-8005

京都市中京区河原町三条上ル 京都朝日会館 8F

《交通アクセス》

▼JR 京都駅前から市バス A2 乗り場で[4] [205] [快速 205]

[17]で河原町三条下車すぐ

▼阪急四条河原町から北へ徒歩 8 分

▼京阪三条(出口⑦が便利)から西へ徒歩 5 分

▼地下鉄京都市役所前駅(出口①が便利)から南へ徒歩 3 分